慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	W.T.C. King; History of the London Discount Market. 1936.
Sub Title	
Author	山本, 登
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.11 (1936. 11) ,p.1705(113)- 1711(119)
JaLC DOI	10.14991/001.19361101-0113
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19361101-0113

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Gottfried Haberler; Der internationale Handel, 1933. (The Theory of International Trade, translated by Alfred Stonier and Frederic Benham, 1936.)

主張が經濟現象の客觀的認識から必然的に生じた政策的要求であつた事と著しい對照をなすものである。

かくて彼は貿易政策の目的を非經濟的目的と經濟的目的とに區別して論じる。經濟的目的としては從來生產力の發展、富の增加、經濟的幸福の增進等が云はれて居るが、之等は結局國民的收入の絕對的增加なる事實に歸着すると云ふ。更に此の增加した社會的生產物の各個人への分配樣態が問題となる。從つて此の二者が經濟的目的の基準として考へられると云ふのである。

次に彼は許多ある從來の自由貿易論、保護貿易論の殆んど總てを持來つて之を說明し、更に關稅の影響を論じる事に依つてその政策的效果を吟味するのである。それは自由競爭の組織の場合のみならず、獨占組織の下に於ける影響をも論じ、ダンピングの問題にまで及ぶ。

最後に彼は貿易政策手段の具體的技術を說明する。其處では關稅法の內容及び適用の形式、通商條約が主として論ぜられて居る。而して最近保護貿易の爲めの具體的技術は著しく發達した。それは量的に增加したのみならず質的にも變化し、輸入割當制度、爲替管理制度、爲替清算制度、輸出入獨占等々新しい政策手段が次々に顯はれた。ハーベラー自身英譯版序文に於て云へる如く、一九三三年に出版された本書に於て之等の問題に觸れられて居ないのは止むを得ない事であらう。

本書の內容は大體以上の如くである。本書の特色を一言にして云へば理論的考察の豐富な事につきる。尙ほその企圖する所は、正統學派潮流に於ける從來の諸理論を整理し、更に一般均衡原理を以て之を體系付ける事であり、その點で學ぶべき多くのものを見出す。從つて貿易理論研究家にとつて一讀に價する書として敢へて此處に紹介する次第である。

（一九三六・一〇・一六稿）

W. T. C. King; History of the London Discount Market, 1936.

山本　登

ロンドン金融市場は英國に於ける金融の中心であると同時に、其の整備された組織並びに世界に於ける英國の經濟的優越に依つて過去二世紀に亙り世界大戰に至る迄世界最大の國際的金融市場を形成し、更に戰後に於ける米國ニューヨーク金融市場の飛躍的進出にも拘らず尙ニューヨークと共に世界金融中心地の一たる地位を保持してゐる。而して此のロンドン金融市場の特色を爲すものは實に其の割引市場である。蓋し著者によれば「ロンドンが一の國際的金融中心地として優越を誇る所以のものは其の專門化された割引市場に負ふ所大である」（序六頁）。併じ乍ら同金融市場の優越性は國際的部面に限られず、對內的にも世界の他の如何なる金融中心地に比して、其の莫大なる金融取引の迅速にして且一般信用組織を攪亂する事少き事、中央銀行の統制大力なる事及び大藏省の要求を圓滑迅速に充足する事等の諸點に於て評價される。而して「ロンドン市場の此の國內的優越性も亦國際的部面と等しく其の割引市場の特殊の組織及能率に歸し得る」（序六頁）。斯くの如く割引市場はイギリス銀行制度の一の本質的部分を形成するにも拘らず、其の發展を辿り或は如何にして又何故にそれが其の獨特の且優秀な形態を採るに至つたかを示さんとする試みは從來爲されなかつた。從つて本書は此の方面に於て先鞭を付したものと云ひ得る。著者は先

づ、銀行及貨幣上の問題討究を目的として設立された種々の委員會の報告を調査し、斯くて得た豐富な資料を主として利用する。此の綿密な研究に於て十九世紀の全部及び世界大戰直前に至る迄の全期間を通じて割引市場に生じた多くの顯著な事實が指摘される。

實に十九世紀の後期に至る迄、イギリス銀行制度は所謂「單一」銀行制度の型を採つてゐた。異る地方の金融的需要が現在見る以上に相互に相異する時に於て、地方化された銀行制度は或る一定型の地方(例へば農業的地方)の信用過剰と他の型の地方(例へば工業的地方)の信用不足がそれに依つて平均化される一種の中心的プールを通じてのみ有効に其の職能を果し得た。割引市場は斯かるプールを提供すると同時に兩地方をつなぐ管の役をなした。從つて割引市場が十九世紀の銀行組織に於て一の鍵的地位を占めてゐたと云ふも誇張ではない、割引商會(the discount houses)及手形仲買人(the bill brokers)が無かつたなら銀行機構の發展は全く別のコースを採つたに違ひない。其の相違は金融市場のみならず預金銀行それ自身の近代的構造に多大の影響を與へたであらう。斯くてロンドン割引市場それ自身の現實の歷史が本書の一の主題を形成すると同時に、次の諸題目が又考察の對象となる(序八頁)即ち

一、割引市場と一般銀行組織間の一切の重要なる關係。

一、割引市場の特殊の發展がイギリス銀行制度及ロンドン金融市場の究極の形態に與へた寄與。

一、大一藏省金融の一機構としての割引市場利用の漸進的擴大。

一、最初は割引商會の競爭者として後には全市場及信用狀勢の統制者としての英蘭銀行の市場技術の漸次的發展。

等の諸問題である。著者は之等の題目を實際的見地より說明せんと努め、章を追つて年次的に叙述する。

本書の構成は九章よりなり、第一章手形仲買人の勃興。第二章一八二五年の恐慌と其の結果。第三章中央銀行職能の發達に次いで第四、第五の兩章に於て一八四四年の英蘭銀行特許條例の結果を檢討し、第四章に於ては英蘭銀行の新割引政策を、第五章に於ては一八四七年の恐慌を指摘する。更に第六章英蘭銀行と市場の關係、第七章割引會社の勃興、第八章國際的金融市場の發達を述べて第九章英蘭銀行の道德的優越性を以て終る。以下其の概要を述べるならば、英國に於ける金融的媒介業者の存在は可成り古くに遡り得るが先づチュードル王朝以前に見出された者は單に借手と貸手を引合はす役目をなす兩替業者(money-dealers)であり其の中最も重要なるものは一般商人に對して一種の預金證書を供給した所の"scriveners"であつた。所で十五、十六、十七世紀の社會を通じてはscriveners及び一般金貸業者は憎惡の目を以て見られ、宗教的、人道的、經濟的並びに社會的根據より攻擊せられた。併し此の事實は逆說的に同期間を通じて經濟界に於ける金融業者の勢力增大を證明するに外ならない。初期の兩替業者は當時の經濟に於て後の手形仲買人に匹敵する職能を果してゐたにも拘らず尙ほ所謂手形業者ではなかつたが十七世紀の終り迄には漸次に手形金融の業務が其の主たる仕事を形成するに至つた。然も尙アダム・スミス時代以前の手形仲買人は、十九世紀初期のものとは少くとも一點に於て異つてゐた。即ち一七五〇年以前に於ては、彼等の主たる活動部面は商人相互の間に於てであり、銀行相互間或は銀行家と商人間に於いてではなかつた。併し乍ら單なる"money scrivening"から手形仲買への移行は十八世紀前半に於て既に著しい進捗が見られ、それは地方銀行の勃興によつて完成された。而して「工業化の開始及交易の發達に伴つて、借手が優勢な地方に銀行が發生した時に手形仲買人の奉仕は不可欠のものとなつた」(六頁)。換言すれば手形仲買業は其の初期に於ては地方銀行業と密接に關係ある活動であつた。地方銀行業の發展は一七九七年の恐慌に基く英蘭銀行の正貨支拂停止後に於て益々手形仲買業に刺戟を與へ一八一〇年迄に地方銀行に對する手形仲買人の代理業務は大いに擴大された。更に其後に於ても地方銀行及

商人を相手とする手形市場の業務は著しい増大を示し、加ふるに工業化の進行及其れに伴ふ工業地方に於ける銀行業の普及につれて地方銀行家は手形市場を從前の如く單に貨幣投資の通路としてのみならず、更に貨幣獲得の手段として見做すに至り、從つて一八一〇年後に於て手形仲買人を通じての再割引が著しく重要となつた。斯くて今や「ロンドン金融市場は金融制度に於ける組織的な確固たる單位となりつゝあつた」(三〇頁)。

然るに其間に於ける主として地方銀行側の不注意な金融により刺戟された過大な投機が原因となつて一八二五年の金融恐慌が惹起された。割引市場の見地より見て此の恐慌は銀行組織上四つの主要な變革を齎らした、即ち(一)株式會社銀行の創設、(二)英蘭銀行支店の設立、(三)ロンドン個人銀行による再割引の停止、(四)英蘭銀行による或る中央銀行職能の採用等である。此の中、前二者は割引市場の大さを擴大するの結果を生じたが第三のものは割引市場の形態を變ぜしめる事によつて、より根本的な影響を與へた(六二頁)。ロンドンの銀行家が斯かる手段に出たのは正貨準備を不當に英蘭銀行に依存する事の危險を悟つたからであり、そこで彼等は從前の如く其の全資金を使ひ果し緊急の際に其の手形を再割引する事を止め、自ら多額の正貨準備を維持して手形仲買人にコールで貸出す事によつて緊急時に備へる事にした。斯くして手形仲買人は此のコールを營業資金として利用する事に依つて今や自己にの計算に就て手形割引を行ひ得る事となり茲に純然たる割引業務の發生を見るに至り、それは一八三三年の高利制限法の徹廢後に於て益々發展を見た。

更に(四)即ち英蘭銀行の其の責任及職能に對する新しい態度も亦銀行制度並びに割引市場の發展に於て根本的重要性を有する(七〇頁)。即ち英蘭銀行による通貨の統制、金利政策或は初步的公開市場政策等の採用を見たのであるが割引市場との關聯に於て最も注目すべきは手形仲買人に對する再割引の開始であつた。蓋しロンドン個人銀行からのコールによつて營業を續ける手形仲買人は緊急時にコール回收に遭つた場合、英蘭銀行によつての手形再割引によつて之に處するを得たのである。從つて此の方法は一面に於て英蘭銀行の統制力を强化し他面割引市場の發達に大いに資する所あつた。

以上の如き種々の變革を經つゝロンドン金融市場は漸次發展の途を迹つたのであるが、やがて英蘭銀行による通貨統制の不備から一八三九年の金融逼迫を生じ、之は英蘭銀行の地位薄弱を暴露する事となつて、一八四四年英蘭銀行特許條例の制定を見た。此の條例に依つて英蘭銀行の獨占は究極的に確保せられ現代の全能な中央銀行への發展の基礎が固められた。

英蘭銀行は斯くて得た自由を直ちに利用して以前より侵略的に商業的業務に就て市中銀行及割引業者と競爭するに至つた。新割引政策("new discounting" policy)と稱せられるものが即ち之である(一〇七頁)。然るに之に基く信用の濫用が主因となつて一八四七年の恐慌を惹起し、同年後に於て英蘭銀行は割引業務に就て外部市場との積極的な競爭を中止した。其後經濟的活動の全般的膨脹が見られ、交易並びに銀行業の發展は手形市場のより一層の發達を齎らしたが、軈て金發見によつて國内及び植民地市場に招來された狂熱的投機よりして一八五七年の恐慌が生じた。而して其の救濟策は手形市場の活動を制限するに在りとされ英蘭銀行は手形業者に對する再割引を停止した。然も他面に於て五〇年代を通じて行はれた株式銀行への有限責任の原則の導入、工業の進步、支店銀行業の膨脹、通信の改良等は第一に大割引會社の勃興を促し(二一七頁)第二に內國手形の漸減(二一七頁)等の大なる變革を齎らした。斯くて爾後新原則に基く株式銀行の活動が益々有力となる一方、海外交易の發展はそれと共に外國貿易手形の取引を盛大ならしめ今やロンドンは一の國際金融市場としての作用を營むに至つた。其の間、英蘭銀行と市中銀行

或は割引業者間の軋轢も次第に消滅し、手形業者への再割引も一八九〇年に復活される等英蘭銀行は益々中央銀行としての職能を強化し、從前の數量的統制に代つて質的統制が行はれ、其の道德的優越性が普遍的に認められるに至つた。以上が大戰前即ち一九一四年迄の情勢であるが、誠に著者の結論する如く「一九一四年に於て、ロンドンは其の組織的な割引市場なくしては、正に其の偉大さを有する事無かつたであらう。」（三二一項）。然も戰後に於ける割引市場の取扱對象の外國貿易手形より大藏省證券への移行は同市場の新方向を決定するものとして注目を要し、又、國際的にニューヨーク市場との拮抗も興味ある問題である。

以上が本書内容の概括であるが先づ本書は既述の如くロンドン割引市場史を扱ふ事に於て嚆矢を爲す點で高く評價されねばならない。本書に依つて吾人は同割引市場の發展に關して明解なる智識を抱くを得るのみならず、同市場と不可分の關聯にある市中銀行の發展及び中央銀行政策の完成化等に就ても亦、より一層の理解を得る。然も亦之等の智識の綜合によつて吾人はロンドン割引市場の特殊性を誤りなく把握し得るのである。唯本書の唯一の弱點は割引會社に比較して個人的の手形業者を輕視した事である。然るに個人的業者はロンドン割引市場の發展過程に於ては勿論の事、現在に於ても尙依然として一の重要なる役割を演じてゐる。此の事は著者が主として考察した割引會社が割引市場の全資金の約半分を支配するに過ぎない事實によつても裏書される。從つて吾人は著者が近刊を約する「近代的割引市場を示す實際的な主として叙述的な著作」に於て、より最近の發展の分析と共に此方面への言及の爲される事を望み度い。

本書は又文章も平易簡明で、專門家のみならず一般讀者にも理解し易い事を期する著者の希望は充分に達せられ居り更に割引市場の發展に密接に關聯する著名なる手形業者 Gurney 家の興亡を叙述する事によつて一段と興味を增してゐる。

何れにしても、本書がロンドン金融業者並びに經濟學者に與へる貢獻は甚大であり、本問題に關する限り一の權威書たるを疑はない。本書に序を寄せたロンドン大學のグレゴリー教授も「著者は自ら計畫した仕事を完全に遂行した。而して其の著書は英國銀行業及通貨の研究者にとり正に不可欠なる材料の一であらう」との絶大の讃辭を惜まない。

（一九三六・一〇・二四）